

悪のための悪：悪魔崇拝という観点なしに世界は理解できない

渡辺 久義

2017/ 02/ 27

神とかサタンといったものを、非現実的な、単なる仮説と考えている限り、現在の世界情勢は理解できない。これは、メディアや学界が取っている立場であり、(特に日本の) 一般社会もそれに倣って、そうでなければ現実には把握できないかのように錯覚している。これは全く転倒した想定である。超越的な実体を軽蔑した半世紀前ならいざ知らず、今、否応なくそういう現実を目を開くように、我々は強要されている。これを終末的とも、聖書的世界観とも言ってよい。

インターネット代替メディアの世界で、おそらく最もよく知られた反体制警世家のアレックス・ジョーンズのサイト **Infowars** が、数日前ついに弾圧されて、彼の機関銃のような熱弁がついに聞かれなくなった。彼は真の愛国者であり、今、愛国者が最も迫害されている。彼はトランプ大統領が出現して、アメリカが 2 つの陣営に分裂して以来、特に“ピザゲイト” スキャンダルが広く知られて以来、特に「神」という言葉を頻繁に口にするようになった。ピザゲイトに象徴される、人間になしうる悪の極限、“悪そのもの” ともいうべきものが、明らかな現実として実在する以上、「神」がその対極に存在しなければならないという、自然に出てきた結論だと考えられる。

これはどんな宗教家の説く神よりも、説得力をもつ。もちろんこれは特定の宗教・教派の神ではない。彼はマイクの前で、現状に憤って泣き出すことがあるが、それは、その怒りとともに腹の底から絞り出された神である。この時期、我々は神に接している。

そのアレックス・ジョーンズの熱弁が聞かれなくなった最初の日に、このサイトに面白い動画ニュースが出た。それは、レイジアナ州のある町で、共和党の集会が行われたときに起こったことで、開会の挨拶としてアメリカでは、多くの宗教を代表してキリスト教の祈りが行われる。この祈りの最中から会場が騒がしかったのは、この中に大勢の反トランプ抗議者がいたからで、彼らは **In God we trust** とか、**In the name of Jesus** という文句が出ると「そんなことは自分の家で言え」とか、なんと「それは **Lucifer** だ！」と叫ぶ者が何人かいたようである。

なるほど、これで謎が解けたような気がする。なぜ、これだけ多くの反トランプ抗議者が存在するのか、なぜ、アメリカ人民のアメリカを乗っ取るだけでなく、「お前たちを食べ物にするぞ」と言っている（ピザゲイトは現実的にも比喩的にもそれ）者たち＝ソロス・クリントン＝オバマ側を熱烈に支持し、その体制を打破して人民に主権を取り戻すと言っているトランプ側を、憎む者がなぜこれほど多いのだろうか？ これは単なる政治的な対立でなく、霊的次元の対立と考えなければ説明できない。人間を超えたものの支配を想定せざるをえない。ヒラリーにもオバマにも悪魔による憑依の兆候が見られると言われるのは、その通りのものであり、彼らは二人とも、自分の著書をルシファーに献呈した共産主義者ソール・アリンスキーの心酔者であった。

今起こっている中東での戦争を見ても、そのような想定をしなければ理解できない。特に、イエメンの惨劇とメディアによる無視は異常である。「イエメンについての西側の道徳的偽善」(<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170227.pdf>) をご覧いただきたい。イエメンでは何年も前から、人々が食糧や生命維持物資の不足によって、慢性的に餓死に追いやられている。彼らを殺しているのは、サウジアラビアやその背後のアメリカだが、どうやって殺すか？ まず決定的に貧しい村落に、わずかの人々が住んでいる。どんなに貧しくとも葬式や結婚式はあり、わずかの人々が教会などに集まる。すると、それを狙って飛行機が爆撃する。それだけならよい。死傷者が出れば、どんなに貧しくとも救急車は出動するが、今度はそれを狙って、同じ場所をもう一度爆撃する。このやり方はダブル・タップ (double tap) と呼ばれ、これは射撃で、2度立て続けに同じ的に命中させることを言う。またイエメン (アラビア半島南端) は湾港都市があるため、人道的救援物資が入港することがある。するとそれも狙って爆撃される。

こういうことは普通の人間にできることでなく、やろうとも思わない。(よほど深い恨みがある場合は別だが、そういうものはなく、将来の脅威があるわけでもない。) なぜそんなことをするのかと訊ねたら、おそらく彼らは、“悪のための悪” だとしか答えようがないだろう。もっと深層心理へ分け入るなら、ルシファーを喜ばせるためだと答えるかもしれない。徹底的に悪を極めるために悪事をなす、ということがあり得ると考えなければならない。何かの利益があるのだらうと、合理主義的に考えることはできない。

これは、ピザゲイト (ペドゲイトともいう) についても同じことが言える。「なぜそんなことを」という本質的な問には答えようがない。それは“悪そのもの” が実体化したものであり、“カルチャー” と言われるほどに蔓延しているのは、ルシファーが神の作品である人間を支配する力を、見せつけているのである。